



ゆうメール

## MAC NEWS

2024年 9月号

ガミガミ



## 「愛情ある厳しさ」、持っていますか？

～「褒める」と「叱る」・・・どちらが大事なの??～

ニコニコ



## 一体何が正解なの・・・？

最近子育てに関する様々な情報が溢れかえっています。

あるところには子供に甘い親（もしくは友だち親子）を戒めるかのように「厳しくしなさい」と書いてあったり、また別のところには「褒めて育てる」と書いてあったり・・・

子育ての方向性が間違っていないか心配だから情報を探しているのに、正反対の事が書いてありむしろ悩んでしまう・・・という方も多いのではないのでしょうか。

子育てに詳しい心理学博士、榎本博明氏は、

「模範的な子育てをしようなどと思う必要は全くないのであって自分流で良い。子育ては毎日が試行錯誤だ。気持ちが子供にちゃんと向いていれば、どんな対応であっても、時に感情的に叱ってしまいがちで、すくなく修復できるし、気持ちは通じ

るものである」

と、仰っています。ご安心下さい、子育てには正解も不正解もないのです。

基本的には子育てに正解・不正解は無いとしながらも、榎本氏は「褒めると子供はダメになる」という本を書かれています。

榎本氏曰く、何でもかんでも褒める子育てをしてしまうと、「傷つきやすい」「頑張れない」「意志が弱い」子になってしまうのだそうです。どうということなのでしょう？

自分勝手な自己主張  
をするように

榎本氏は大学で講義もされていますが、年々おかしな生徒が増えてきているとのこと。

授業中あまりに態度が悪い生徒がいたので「静かにするように」と注意をすると「うるさいなあ」と態度を改めない、それに対し説教口調で厳しく注意したところ、その生徒は

休み時間に教務課へ駆け込み、「先生からきついことを言われて傷ついた。あんな先生の授業は受けたくないから先生を変えて欲しい」と要求したそうです。

・・・それからどうなったのか？

その学生を別の先生のクラスに移すという措置を取り一件落ち着いたのです。お客様扱いが浸透している今の教育業界を物語っています・・・

別の生徒は何度注意されても授業中に居眠りを繰り返し、挙げ句の果てに「僕は遅くまでバイトをしていて眠たいのです。寝かせて下さい。」と言いだし、「寝るのなら教室から出て寝なさい」と榎本氏が言うと「僕は友だちと居たいのです。授業料を払っているのだからここにいる権利があります」と言い出したらしいのです。

毎回遅刻する生徒に注意をすれば「僕は家が遠いのです。これでも早く起きて頑張っているの

す」と、当然自分の言い分が通ると言った調子で話すそうです。

MACでも以前、宿題をしてこなかった子がいたので理由を聞くと「時間が無かった」と言います。

前の通塾日からは土日もはさんで数日間あったので「十分時間はあったでしょ？」と聞くと、「土曜日は親戚で集まって、日曜日は家族で遊びに行ったから・・・」と宿題ができなかった理由はちゃんとありますよ！と真剣な顔で答えます。「いや、そりゃ通用しないよ・・・(^;）」と本人にはちゃんと話をしましたが・・・(笑)

榎本氏は著書で以下のように書かれていました。

「義務を果たさなくても叱られない。いつも親がほめるべき点を探してほめてくれ、良い気分にしてもらえる。そんな子育ての結果、どのような人間が作られていくのかということについて、ちょっと真剣に考えてみる必要があるだろう。」

## 身勝手は社会人になっても変わらない

先日、一般企業に勤める知り合いが嘆いていました。新入社員が入ってきたので同行営業で仕事を教えていたら、

「僕、教えられるの嫌なんですよね。もっと自由に仕事がしたいです。この会社は僕に合わないから辞めます。」

と言い、1週間ほどで辞めてし

まったらしいのです。

しかし、このような若者は決して珍しくはありません。

私の同級生で社会労務士をしている友人がいるのですが、

「4月に大量の新入社員の入社手続きをするが、5月頃にすぐ退社の手続きをすることが最近急激に増えた。理由を聞くと教えられているのが嫌、会社が自分に合わないという理由がほとんど。」

と言っていました。この話には私も驚きましたが、とはいえそのようなケースは少数でしょ？と聞くと、どうやらそうでも無いらしいのです。

学生時代には成績優秀だったとしても、これでは何の為に勉強してきたのか分かりません。何としても、可愛い我が子にはこんな社会人には育てて欲しくないものです。

どのような褒め方がいいの？  
(ここ大切です！)

「ほめると子供はダメになる」とは言いますが、当然のことながら全く褒めるなどという意味ではありません。何でもかんでも褒めるという風潮がいけない、ということなのです。

「褒めると自己肯定感が高まる」とお考えの方もいるかとは思いますが、褒める＝自己肯定感が高まる、とは言い切れません。

自己肯定感は自分の立てた目標

を達成した達成感や満足感から、内（自分自身）から生まれる感覚であって、外から褒められたりして生まれる感覚では無いのです。

実は褒め方によって子供達の心理に大きな差が生じます。あなたはお子さんを褒める際、「結果を褒める」「頑張りや努力を褒める」のどちらですか？

## 結果を褒める

良い結果を褒められると、自分の能力の高さに対する期待を裏切りたくないという思いが生まれ、もし期待を裏切ったらどうしようという不安に駆られます。その結果、確実に成功しそうな優しい問題を選ぶようになり、「守りの姿勢」に入り困難な問題にチャレンジしにくくなる。

## 頑張りや努力を褒める

努力する人間だという期待を裏切りたくないという思いに駆られ、次ももっと努力している姿を見せたいと、チャレンジしがいのある難しい課題を選ぶようになる。

日頃子供達を指導していても、ほとんどの子は「守りの姿勢タイプ」だと感じます。

そんな時には「塾では通知表つけないのだから、どんどん×してもらって、間違い直しをしたらいい。そうしたら学校の通知表が良くなるよ」と伝えます。

各ご家庭でも、結果よりも頑張りや努力を褒めるようご協力お願い致します。